

| 会議報告書 | |
|------------|--|
| 会議名 | 令和3年度 草津市立教育研究所 第2回運営委員会 |
| 日時 | 令和4年2月4日(金) 午後3時30分から午後4時55分まで |
| 場所 | 草津市立教育研究所 2階研修室 |
| 出席者 | 委員：7人 糸乗 前、高井 育夫、辻 大吾、竹内 美和子 高木 洋司、山本 忍、宇野 その子 教育研究所：6人 所 長：藤井 泰三 副参事：恒松 睦美 指導主事：奥村 真也 研究員：陌間 智 指導員：中谷 仁彦 スキルアップアドバイザー：清水 康行 |
| 欠席者 | 委員：2人 森 登世美、橋本 篤典 |
| 運営委員会の関連資料 | <input checked="" type="checkbox"/> 有(別添のとおり) <input type="checkbox"/> 無 |
| 記録作成者 | 草津市立教育研究所 研究員 陌間 智 |

所長：ただ今より、令和3年度草津市立教育研究所第2回運営委員会を始めます。

それでは、所長の藤井が会を始めるにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。運営委員の皆様方には、公私ともご多用のところ、御出席ありがとうございます。新型コロナウイルスの感染状況も気になるところでございます。対策を十分に講じて、できる限り短時間での開催とさせていただきますので御了承ください。本運営委員会ですが、傍聴席が設けられますこと、会議の内容が草津市のホームページで公開されますことを御了解ください。

さて、少しずつ感染者数が減少し、デルタ株の波がようやく引いたという雰囲気の中で迎えた年末年始でしたが、それが嘘のように、今はオミクロン株の猛烈な勢いに混乱する毎日です。特に若い世代の感染が増加しており、教育・保育の現場は、日々コロナの対応に追われ、これまで最も厳しい状況にあると言えます。今年度も、様々な制約や配慮が求められる中で、草津市は「子どもが輝く教育のまち 出会いと学びのまち くさつ」の実現に向けて教育活動の推進に取り組んできました。当研究所におきましても「with コロナ」の中で事業を見直し、昨年度の経験を活かして、できることを模索しながら、ここまで参りました。計画したことが変更になり、延期になり、ときには中止を余儀なくされることもございました。なかなか思い通りにはいきませんでした。所内で意見を交わしながら、各事業に取り組んでまいりました。この後、本年度の取組について説明させていただきます。委員の皆様より忌憚のない御意見をいただき、よりよい運営の在り方について考えたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。では、これより規則7条により糸乗会長による議事進行をお願いします。

会長：みなさん、こんにちは。よろしく申し上げます。第1回の運営委員会が6月にごございましたが、それから少し時間が経っております。今回初めてご参加いただきました方もいらっしゃると思いますので、改めて簡単な自己紹介をお願いします。役職とお名前だけおっしゃってください。では、教育研究所からお願いします。

所長：では、順に自己紹介をさせていただきます。

藤井所長、恒松副参事、奥村指導主事、陌間研究員

適応指導教室担当…中谷指導員、スキルアップアドバイザー…清水先生

今回は新型コロナウイルス感染防止対策のため、それぞれの発表者を各部1名の参加とさせていただきます。

会長：ありがとうございました。では、次は運営委員の皆様にご自己紹介をお願いします。

糸乗委員、高井委員、辻委員、竹内委員、山本委員、宇野委員、高木委員

会長：ありがとうございました。それでは、運営委員会を進めさせていただきます。皆様には、円滑な議事運営にご協力をお願いいたします。まず、本日の運営委員の出席は何人ですか？

研究所：7人です。なお、森委員様、橋本委員様からは、本日欠席のご連絡をいただいております。

会長：7人は運営委員10名の半数を超えていますので本運営委員会は成立いたします。では、議事進行に入ります。まず、令和3年度事業の実績と課題について、担当より説明をお願いします。なお、(1)から(5)までの項がありますが、一括の説明をお願いします。

令和3年度事業の実績と課題について担当者より説明

※別添資料(1)(2)に沿って説明

- ① 研修事業について(指導主事)
- ② ②調査研究に関する事業について(研究員)
- ③ 教育相談に関する事業について(指導員)
- ④ スキルアップアドバイザー配置事業(スキルアップアドバイザー)
- ⑤ その他(指導主事)

会長：ありがとうございました。それでは、これより質疑に入ります。今ご説明いただいた内容について、御質問、御意見、合わせてお願いします。

委員：この委員の仲間入りをさせていただいたこの2年間、ちょうどコロナ禍で世の中が一変して、今まで経験したことのない数多くの難問がかかってきて、教育関係者におかれましては大変だったことと思います。行事一つとっても、できなかったという話も聞いています。今日の発表を聞きまして、逆境の中でも色んな工夫がなされていて、オンライン授業や一人一台のタブレット端末を活用した学習もより一層去年よりも進んでいると感じました。地域差もありますが、草津市は他市よりも早いのではないかと考えています。ですので、他市から草津に転任された先生方が大変だという話もお聞きしましたが、草津市の取り組みが進んでいることは素晴らしいことだと思っています。

そして研究講座のことを聞かせていただき、夏休みに未来を背負って立つ子どもたちに大きく関わる世界的な課題であるSDGsや性に関するLGBTQなど新しい問題に早速取り組んでおられることを嬉しく思いました。LGBTQについて質問があります。私たちは無意識に男子に対して「〇〇くん」と言うのですが、今学校では統一された考え方があるのか教えていただきたいと思います。またSDGs、LGBTQのどちらも誰もが幸せに、そして自分らしく生きていける世の中であることの重要性を考えたもので、限られた地球資源や一人ひとりを大切にしていけることなどを、地域とか学校、社会全体で考えていかないといけないと毎日頃感じています。

やまびこの取り組みについて、こんなことができるようになったとか、不登校の子が学校に戻ることができた子もいるというのも聞き安心しています。市議会便りでは中学校2年生の不登校が増えていると書かれており、その子たちの大きな原因になっているものは何だろうかと気にしています。やまびこの秋の作品展に寄せていただいた時に、子どもたちの生き生きとした姿の写真や信楽焼の素晴らしい作品を見た時に次のように思いました。子どもたちは生まれた時には必ず何か光り輝くものを持っている。それは学校では見えないかもしれないが、やまびこのような少人数の中で生き生きしている中で、そばにいる先生方がその子どもの光り輝くものを見つけ出し、そして自信をもたせてあげることが、その子たちの将来につながる理想だと思いました。だから、これからも子どもたちの過ごしやすい居場所作りを担ってくださることを願っています。

会長： 質問があったと思うのですが、LGBTQの呼び方については何か考え方がありますか。

研究所： 呼び方については、随分前から男の子も女の子も「さん」付けで呼ぶような対応をしております。LGBTQに関することが不登校の要因となることがあると聞いており、所内でもその研修を行っております。市内の中学校では制服の問題もあり、生徒会やPTAとも協議し、制服の見直しが進んでいるところです。

委員： 例えば、自分の家族、子どもや孫でも小さい頃から「くん」付けより「さん」付けの方がいいのでしょうか。昔からの癖になってしまっているのですが、やっぱり私たちも気を付けていけないといけないということですね。

研究所： 「男の子でしょ。泣かない。」とか言うのは、よくないと言われてますね。

研究所： もう1つの質問に対してですが、今年度の教育相談事業についてお話しします。オリンピックが終わったところからコロナが流行ってきまして、2学期のはじめに午前は普通授業で午後はオンライン授業になりました。適室に通っている子にとっては楽な状況になって、オンラインで参加することができた子もいます。そこで自信をつけた子もいて「よかったな。」と話していました。その後、10月になり、平常授業になった途端に相談件数が増えました。特徴としては中学校2年生と小学校2年生の相談が激増しました。例年も2学期明けの中学校2年生の行き渋りや相談は多いのですが、今年は顕著に突出して多かったです。これは詳しい分析はできていませんが、コロナの影響があると思われるのは、この子たちが卒業式をする時あやふや、入学式もあやふやでコロナがまん延し始めて、学校がいろいろな制限をし始めた頃に卒業、入学した子たちが今の小学校2年生、中学校2年生だということで、何らかの影響があったのかと思います。

会長： みんなで集まる機会が少なかったということですが、大学生も影響している気がします。

委員： 毎年会議に参加させていただき、さらによい実績を積み上げていかれるなという印象です。

私も学校現場にいた時に計画・実践・評価というのを大事にしてきました。教育相談事業やスキルアップ事業の報告を聞いていて、成果や課題を口では話されていますが、説明資料に文字で記していただくともっとよいと思います。評価をしっかりとすることで、来年度に人が変わっても、しっかりと次の計画をされていくと思います。また私たち委員もわかりやすく見やすくなると思います。それが1点目です。

それから、所長がおっしゃっていた「子どもが輝く教育のまち」というのは、私たちも望むことです。ただ残念ながら、それを阻むものとして大きく2つあるとも思っています。特

に去年秋頃からの不登校人数が19万人という記事は、驚きました。これはコロナ禍ならではの影響がありますよね。もう1つは、教員を志望する人が過去と比べて減ってきている。これも新聞に載っていたのですが、そういう影響で学校に人を配置してほしいのに配置してもらえない現実が草津市にもあるのかなと心配しています。退職された方や採用試験に不合格の方とかに来てもらって運営されていると思うのですが、やはり「子どもが輝く教育のまち」を実現するには、そこを工夫して乗り越えないといけませんよね。そういうご苦労話もあれば聞かせていただければと思います。それが2点目です。

研究所： 人の不足については現場におられる先生方の方が実感としてもっておられると思うので、意見交流として、どんな状況でどんな気持ちでおられるのかは聞けると思います。

委員： 今回の発表を聞かせていただいて、研修1つにしても草津市に何が課題なのかを的確に分析をしていただいて、ぼやとした形ではなくて鮮明に、ターゲットをしばって研修等を行っていただいている、教育相談事業をしていただいていると感じさせていただきました。本校では不登校の子がいなかったが、11月ごろから一人来られなくなりました。その子も今は、教育研究所(やまびこ)に来る時だけが、唯一家から出て行ってみんなと交わる機会になっていて、本当に助けていただいています。今年度、コロナ禍の影響でターゲットを絞って研修をされたということですが、それが逆に自分に与えられた校務分掌とか専門で学びたいこととかをニーズとして参加できたこともあって、非常によい学びができたと参加した職員から聞いています。

また、スキルアップについても、さっきおっしゃっていただいたように今現場は若い先生方が大変多く、大学出たてで何の経験のない者でも担任に据えなければならない、しかもその子たちは初任者研修を受けられない中でこういう仕事をしていかなければならない状況で、スキルアップの先生方に助けてもらいながら、何とか学級経営をやりながら、授業をやりながら自分の学びを深めています。そうすると、見事次の年には採用試験に合格するのですが、次に誰かがそこを埋めなければならなくなります。今は産育休が3年ありますので。すると必然的に若い先生が多いこともあって、学校は講師が見つからず疲弊している状況です。大津市のある小学校では9月ぐらいから産育休や病休で先生が次々と休まれ、その代わりが見つからずに、教務の先生、教頭先生までが担任をしなければならない状況になっています。来年度の人事に向けて学校現場は次の講師を探しているのですが、いくつかの学校ではこの時期になっても当てがなく大変困っている状況です。これは草津市だけに限ったことではなく全県、京都、大阪、兵庫、すべてに渡って同じような状況になっています。私も知り合いの校長すべてに連絡して誰かいないか尋ねているのですが、全くいない状況が続いています。そういうことも含めて、今学校が大変しんどい状況になっていることを知っておいていただけるとありがたいと思います。でも教育研究所がしておられる、学校を支えていくという取り組みについては感謝がなく、次年度もより鮮明に明確に助けていただけると大変ありがたいと思います。

委員： 去年、今年とコロナ禍の影響があったのですが、今年は特にICTの可能性がすごく広がったと実感しています。授業の中で活用することは今までからもやってきたことで、ニューアクティブラーニングの中でどんな活用ができるか研究してきて広がったこともありますし、今年度は休校中のオンライン授業で活用したことも可能性が広がったと思います。やまびこに通う子たちが休校の時にオンライン授業を受けることで、通常の授業を受けられたということもありますが、本校では、学年閉鎖しているクラスはもちろんしていますが、閉鎖していないクラス

でも別室等にいる子のために、タブレットで授業を撮影したりリモートの授業をしたりしています。さらに、今は小さなお子さんの濃厚接触者が増えたので、小さな子がいる担任教師が抜けてしまうクラスがいくつか出てきています。今までなら自習にするしかなかったのですが、今はオンラインでつなぐことで、一人の先生が複数のクラスに同じ授業をすることができています。このように試行錯誤しながら一生懸命にやっているので、完成されたものではないですがICTの活用の仕方をどんどん広げていくことができた1年だったと思います。今も1学年閉鎖しているのですが、オンライン授業の形態も変わってきました。9月はネットワークにつないだまま授業をしていたために、ネット環境の違いでいろんなトラブルがありました。でも今は、短い動画を撮って配信したり、実験の動画を撮って細切れにして配信したりするなどYoutubeのように配信しています。すると、子どもたちが自分で一時停止したり、巻き戻してもう1度見たりすることができます。そういうオンラインの授業と動画配信の授業を組み合わせたりしています。技術についても黒板と電子黒板を併用しながら若い先生が中心となって考えて、よいオンライン授業ができてきています。ただ得意な人はどんどんやっているのですが、なかなかついていけない人もいます。今後、ますますICTの技術は必要になりますし、オンライン授業をもっとよいものにしていくために、よい知恵を教育研究所さんからもお借りしたいなと思います。私たちみたいにICTに疎い人でも、できるようなノウハウを教えてくださいなと思いました。

会長：その状況を説明していただいているということは、オンライン授業についてやり方などを理解されているということだと思います。私たちもそうですが、ちょっとしたきっかけがあったり、やってみたらできたということもあったりすると思います。それを広げていくことをしていかなければならないのだと思います。

委員：少し違う話なのですが、草津市教育研究奨励事業についてです。この事業は、私も何度か取り組んで応募もさせていただきましたが、とても素晴らしい取り組みだと思います。一番はじめに「この1年間にどのような子どもをめざして育成していくか」というめあてをしっかりと立て、アンケートをしたり初期の学力を図ったりした上で、ゴールを目指して子どもを育てていく。そして、その成果はどうだったかを振り返る。仮説から最終の結論にもっていくために、その場その場の授業をしてしまうのではなく、1年間の先を見通した授業を構築していくには、とても効果的だと感じました。今年度、本校で事業に応募した教員がいるのですが、その教員のモチベーションがどんどん上がっていききました。毎日、私のところに来ては、「結果はまだですか?」「結果、楽しみですね。」「表彰式は、どんな感じですか?」と教員がそこにモチベーションが高まっていると感じました。この事業の優秀作品や最優秀作品は、その後どうなっていくのかが気になります。例えば草津市代表の教育実践として、県で披露したり全国に発信したりする場があると、さらにモチベーションが上がっていくのではないかと思います。ぜひこの事業は継続して取り組んでいただければと思います。

会長：この点につきまして、論文をどのような活用をしているか、置いてある場所とかありましたら教えていただけないでしょうか。

研究所：基本的に昨年度の優秀作品は、草津市のポータルサイトに載せています。併せて年度末に所報を作成している中に掲載し、各市町の教育研究所や滋賀県総合教育センターに送付しておりますので、見てもらうことは可能かと思います。そして発表の場としては研究発表大会を設け

ています。昨年度の優秀作品を今年度の研究発表大会で発表していただいたのですが、それは今年応募された先生方の研修会という位置づけにもなっています。

会長：私も研究論文を見せていただくのですが、そういう実践を学会等に発表するというのも1つなのかなと思います。確かに学会レベルになると、何年間の蓄積が必要になってくるとは思いますが、そのあたりも目指していただけると、よりよいものが出来上がってくるのではないのでしょうか。

研究所：市でこの事業をやっている理由は、一つの登龍門であり、ステップにしてほしいと願っています。市の奨励事業に出したものは他のものに応募してはいけないという規定があります。ただ市の経験を踏まえて、県や国の方へステップアップされている先生もおられます。市の応募を糧として「いい経験になったから、一つレベルアップしてみるか？」というように声をかけていただき、全国などを目指してほしいと思います。市に出した論文と同じものが外に出るのは問題がありますので、そのあたりはご理解いただけるとありがたいです。

委員：教育研究所の1年間の取り組みに感心させていただきました。しかし1つだけ、新しいことに取り組みされていることに逆行しているかもしれませんが、子どもたちと接していてここ何年間か気になることがあったので話させていただきます。それは子どもたちの語彙力が少ないのではないかということです。今までからも、どの学校でも取り組んでおられると思うのですが、コロナ禍の中で我慢することが多いのか、自分の気持ちにぴったりの言葉をうまく使えていない子がいるのではないかと思っています。子どもたちは簡単な言葉で、「むかつく」「イライラする」「わからへん」「めんどくさい」などでまとめてしまうのですが、その中には、もっと細かい思いがあると思うのです。その子にもっと伝える力があつたら、相手に伝えるコミュニケーションがとれたら、SNSのトラブルやいじめなど嫌なことがあつても対処できる力がつくのではないかと思うような子どもの様子が見られるのです。そういう取り組みは今までからもされていると思うのですが、もし余力があれば、すぐに結果は出ないと思いますが、もう少しそのような取り組みをしていただければと思いました。もう若い先生の言葉にもついていけなくなっています。中学生や小学校高学年の子が略している言葉は何かわからないこともあります。そういう言葉も使いながら、みんなに伝わる日本語も使えるようにしてほしいと思います。そうすれば英語力やプレゼンテーション能力や読み解く力につながると思いますし学力も上がると思います。

研究所：子どもたちの日常会話を聞いていると、LINEのように短い言葉で済ませてしまうことが多いと感じています。研究所では新しいことにも視点を向けていきますが、ずっと課題になっていること、時間をかけて温めていかないといけない課題もあります。スキルアップの部門でも研修の部分でもそうですが、コミュニケーション力とか語彙力、自分の気持ちを伝える力などに視点を当てた取り組みや発信ができるように所内で考えていきたいと思っています。

会長：語彙力については、デジタルの弊害があるのかなと思います。今は調べたらぱっと出てくるので、それ以上考えることをしない。辞書なら、どの言葉かなと考えることをしていたのが、今は画面上でピンポイントに出てきてしまうので、他の言葉を知らないとか使えないということが言われています。そういう環境になっているので、そこにどう立ち向かっていくのが課題だと思います。

委員：今の部分はとても大事なことだと思います。言葉が短くなっているというのは正にその通り

で、うちの娘との会話で「これやっという」と言ったら「り」という返事が返ってきます。まあ、それは置いておきます。先ほどの調査研究の中でも、端末を使って、結局は考えを、調べたことに対して考えをもったり、おかしいなという疑問をもったり、相手と考えのやり取りをしたり、クリティカルシンキングをもったり、そういう力を使っていくための端末、メディアじゃないといけないと思います。端末だけが、ICTだけが独り歩きしないように、教師の力量が問われるところだと思うのですが、教員のファシリテータとしての役割が大変重要になってくると思います。

会長：森園長からのメールを預かっているので読ませていただきます。『適応指導教室の成果を読んで、コロナ禍で様々な要因から家族関係がうまくいかなることも想像でき、次年度も適応指導教室の役割が大きくなっていくのだろうと感じました。また保育の現場では年々支援を要する園児数が増加しており、特別支援教育の中でも就学前教育や保育士対象の研修が重要になってきています。教育研究所には今後もそのような研修を取り入れていただければと考えています。』というコメントをいただいております。現場では、毎日のように休園する園も相次いでいる状況だということも付け加えさせていただきます。

会長：4年度の事業計画もありますので、このあたりで採決をさせていただきます。令和3年度事業の実績と課題について、ご承認いただける方は、挙手をお願いします。

委員全員が挙手

ありがとうございます。皆さんの挙手をいただきましたので、承認いただいたものとします。それでは、次に 3 令和4年度の事業計画について、説明をお願いします。

令和4年度事業計画について担当者より説明
※別添資料（1）（2）に沿って説明

会長：ありがとうございました。ご説明いただいた事業計画について、これより質疑に入ります。どなたからでも結構ですので、ご質問、ご意見合わせてお願いします。

特に意見はなし

会長：事業計画についてはよいのですが…。報告書に関わることですが、研修事業の13講座の研修の中身が分かるようにしてほしいと思いました。また、スキルアップ事業のところも、コメントはいただきましたが、どういうことをして課題があつてこんな成果があつたという内容を書いていただけると分かりやすくなると思いますので、次年度はもう少し紙面に載せていただきたいと思いました。

会長：他に、ご質問、ご意見はございませんでしょうか。では、事業計画についても採決をさせていただきます。令和4年度事業計画について、ご承認いただける方は、挙手をお願いします。

委員全員が挙手

ありがとうございます。全員挙手していただきましたので、承認いただいたものとします。

以上をもちまして、本年度事業及び次年度の事業計画につきまして承認をいただきましたので、これで終了させていただきます。ご協力どうもありがとうございました。

所長 : 会長、議事進行、ありがとうございました。それでは、閉会にあたりお礼を申し上げます。本日は、本運営委員会にご出席くださり、また、慎重審議の上、ご承認いただきありがとうございました。皆様からいただきました貴重なご意見を参考にさせていただきながら、よりよい教育研究所の運営について今後も精進して参ります。「with コロナ」の中で、また、「after コロナ」をイメージしながら、教育研究所は、教員の資質向上や、スキルアップ。やまびこ教育相談室の運営を中心とした支援事業を一層充実し、草津の教育に貢献していきたいと考えております。今後も引き続き、当研究所のさまざまな事業に対してご理解とご支援たまわりますようお願い申し上げます。本日は、ありがとうございました。